

令和3年度自己評価表

教育方針	教育基本法の本質にのっとり、人格の完成を目指し、民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を養い、公共の福祉に貢献する人間性豊かで実践的な技術者を養成する。	重点目標	ものづくりから人づくりへ — いい汗をかこう — 足もとをしっかり見つめ、広い視野と深い思考で、今を生きよう 1 確かな学力の定着と専門的実践力の育成 2 基本的生活習慣の確立と自律心の育成 3 豊かな人間性・社会性の育成 4 望ましい勤労観や職業観の育成 5 安心・安全な学校づくりの推進
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
工業教育	えひめ次世代マイスター育成事業の充実	インターンシップやデュアルシステム、マッチングフェアの充実と、えひめ次世代マイスター育成事業を活用した地域産業界との更なる連携を図る。	B	新型コロナウイルス感染症のため、実施できなかった事業もあるが、工業各科が企業見学等、可能な限り実施した。	マッチングフェアやデュアルシステム等の実施体制を更に充実させて、早い時期からの専門的職業人の育成を図る。
	ものづくり教育の推進	各種のものづくり大会に積極的に参加し、外部支援団体・企業との連携を図り、生徒・教員のものづくりに関する技術・技能の向上に努める。	A	新型コロナウイルス感染症のため、多くの大会等が中止になったが、開催された大会等では、例年以上の成果が出た。	地元企業・外部支援団体との連携拡大を模索して、更なる指導体制の充実を図る。
		ものづくり企業を積極的に訪問し、匠の技教室の実施によって、生徒・教員のスキルアップを図るとともに、専門教育の更なる充実に繋げる。	B	新型コロナウイルス感染症のため、例年よりも機会が減ったが、生徒・教員のスキルアップを図り、専門教育が更に充実した。	実施する内容や時期、回数等を再検討して、今後における専門教育の更なる充実を図る。
	資格・検定取得の奨励	各種の検定試験等に積極的に挑戦させるために、授業や放課後の資格取得における指導体制の充実を図る。	B	工業各科において、授業や放課後、休日等における充実した指導によって、検定試験での成果が例年並みに表れた。	資格検定ごとの指導方法や内容を再検討して、授業・補習において更に充実した指導体制の確立を図る。
学習指導	基礎的・基本的な学力の定着	生徒の実態を把握し、基礎学力の定着と自主的な自己学習力の育成を図る。	B	基礎学力の定着が見られない生徒の指導を根気強く継続的に実施した結果、学力の向上が見られた。また、朝学習を導入し、自主的に学ぶ態度の育成を図った。	担任・各科・各教科担当が連携を密にして、生徒の実態を把握し、しっかりと協力体制を築いて、学校全体で生徒の基礎学力の定着に努める。
	教科指導の充実	校内外の各種研修会に積極的に参加し、教員の実践的な指導力の向上を図る。	B	一人一台端末を効果的に活用して授業を行っている教員が増え、教員の指導力の向上が見られる。	不測の事態が起こっても、生徒の学びの機会が損なわれないように、各教員がさらに自己研鑽を重ねて、教科指導力を向上させていく。
		生徒による授業評価を実施し、授業内容と指導方法の改善を図る。	A	全教科で全生徒を対象に実施した。データをまとめ、指導方法等の改善につなげている。また、生徒も自分自身の学習態度や学習への取組方法等について見直し、改善を図るよう促した。	授業評価の結果を基に、授業の方法など、改善点を検討する。生徒自身が自分の学習態度等を振り返ることにより、反省だけでなく、今後の取組の参考にさせる。
図書室及び図書利用の促進	図書室利用の啓発に努め、読書会や集団読書の充実を図る。(生徒一人当たり年間貸出冊数3冊以上)	B	図書館だよりを毎月発行するなど、図書館利用の促進に努めた。現在の貸出冊数は、1.5冊である。	図書委員会をさらに充実させるとともに、蔵書の入替え等を行い、生徒の読書意欲を高める工夫を行い、図書館利用の活性化と貸出冊数の増加を図りたい。	
特別活動	生徒会活動の充実	生徒会活動(運動会・文化祭・クラスマッチ等)への積極的参加と主体的な運営に努める。	B	新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底し、注意を払いながら学校行事を実施することができた。新旧生徒会役員ともに主体的に企画運営に取り組むことができた。	感染防止対策を徹底しながら、活動できる範囲を広げていきたい。
	部活動の活性化	部活動加入率90%以上(A:70%以上 B:69~60% C:59~50% D:49~40% E:40%未満)とし、県総体130名以上、四国総体3競技以上を目指す。	B	部活動加入率は100%であった。新人戦が延期、中止になった部活動もあったが、県総体、四国・全国大会で活躍することができた。	制限のある部活動の中で、生徒たちは精一杯頑張っている。生徒たちの頑張りに応えられるように環境を整えていきたい。
	ボランティア活動の推進	各種ボランティア活動への自主的・積極的な参加を促し、奉仕の心の育成を図る。	B	今年も対外的行事が中止、延期となったが、文化祭での募金活動などのボランティア活動に取り組むことができた。	周りの人に気を使いながらの生活があたりまえの行動になれるように指導、声掛けを行ってきたい。
生徒指導	問題行動の防止	全教職員の共通理解・共通実践の下、生徒理解に努め、生徒の小さな変化も見逃さず、問題行動を未然に防止する。	C	一部の生徒に繰り返し問題行動を起こしてしまう事例があり、進路変更につながった生徒が出てしまった。	保護者との連絡・連携を密にして、より生徒の実態把握に努め、問題行動の未然防止に努める。
	安全教育の推進	交通規則の遵守やヘルメットの着用など、交通安全意識及びさまざまな場面における「命を守る」意識の高揚を図る。	B	重大事故は発生しなかったが、交通ルールやマナーを守らない生徒が見られ、接触事故も発生した。	集会や講話をする機会が確保しにくい場合、街頭での交通指導をさらに充実させるなど、加害者にも被害者にもさせない指導をしていきたい。
	基本的生活習慣の確立	生徒の進路実現のために、挨拶、身だしなみ、時間及び健康の管理に関する指導を継続して行い、規範意識の高揚と基本的生活習慣の確立を図る。	B	全教職員の共通理解の上で、ある程度実践できたが、怠業を含め学習への意欲が乏しい生徒もいた。	教職員の共通意識と共通理解の徹底を図り、生徒の規範意識の高揚を図る。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
教育相談	充実した学校生活の支援	ホームルーム担任や養護教諭、科、専門機関との連携を密にし、生徒の悩みの克服を支援する。	B	いじめアンケートや追跡調査を通じて、ホームルーム担任や養護教諭と連携して情報交換や対象生徒への対応ができた。	引き続き先生方との連携を取りながら、生徒や保護者の意向を勘案しつつ、適切な指導を継続したい。
		特別な配慮を要する生徒の実態把握に努め、学校生活を支援する。	B	職員間で配慮を要する生徒の情報の共有に努めた。今年度は現在まで、いじめ・不登校とも顕著な例は確認されていない。	教育相談室を訪れる生徒を増やしていきたい。そのためにもさらなる情報収集と情報発信を心掛けたい。
人権・同和教育	現職教育の充実	生徒の自己実現に向け、14項目の共通理解・共通実践を図る。教師自らが人権感覚を磨き、あらゆる教育活動において生徒の人権意識を高めようとする教員集団作りを目指す。	C	事前担任会で、資料や教材を提示し、教員の人権感覚が高まるよう努めた。1年担任にはSOGIIについての資料を提示したり、3年生担任と14項目の共通理解・共通実践を図ることができた。	あらゆる教育活動において生徒の人権意識を高めることができるよう、全教職員と共通理解のもと人権・同和教育に関する啓発活動を行ってきたい。
	望ましい集団活動の推進	人権委員会を活性化し、様々な活動を通じて、差別を許さない集団作りを目指す。人権委員の活動で学んだことを生徒全体にフィードバックする。	C	人権委員会でSOGIIに関する知識を深めたり、人権集会の準備のために多様性についても学習し、「アサーション」の学びを深めることができた。	人権委員会で学習したことを、全校生徒と共有することができるよう工夫する。
進路指導	進路意識の高揚	「キャリア・パスポート」、進路希望調査、進路相談等を通して、より具体的に進路に対する意識を高めさせる。他課や外部との交流を深め、生徒の進路観や職業観を育成する。	B	具体的な進路希望調査を2年の3学期に1回、3年の1学期に2回実施することにより、意識の高揚を図り、生徒の進路希望状況の把握に努めた。また、「キャリア・パスポート」を利用したホームルーム活動や積極的な進路相談も実施できた。	より早い時期から自分の適性を理解し、保護者と進路に関して相談させる。授業、ホームルーム活動、各種検査、学校行事を通して、より具体的に考えさせる。「キャリア・パスポート」のより積極的な活用方法を引き続き検討する。
	就職・進学指導の充実	生徒一人一人の適性や能力の把握に努め、キャリア教育の充実を図る。学校紹介による就職内定率100%、進路希望達成率100%(A:100% B:99~95% C:94~90% D:89~85% E:85%未満)を目指す。	B	就職については、就職希望者全員が内定している。また、進学については、大学進学希望者の1名以外は全員が合格している。1名に関しては、試験が3月のため、卒業後となる。コロナ禍ではあるが、ほぼ全員の進路が決定したことは非常に良いことである。概ね「A」の評価と言える。	進路に関係なく、コミュニケーション能力の向上が肝要であり、社会人としてのマナーや挨拶など、学ばせる事項はまだ多いと思われる。進学希望者については、1・2年次からオープンキャンパスなどに積極的に参加させる。就職希望者には、地場産業や職種等を調べさせ、早くに職業観を身に付けさせる。
情報管理	ICTの活用及び情報モラル教育の充実	一人一台端末を有効に活用し、授業における各教科の有効的なICT機器やWi-Fiの活用方法や情報モラルに関する効果的な指導方法を研究する。	B	アプリ(Teams等)を活用して、確認テストや課題の配布・回収の実施が効果的に行えた。液晶プロジェクタが教室に設置され、授業での活用が積極的に行われ、指導効率が上がった。	情報機器やネットを正しく利用すること、また、情報モラルやネットマナーが、自身や他者を守るために必要であることの指導を継続して行いたい。
	セキュリティ及びデータ管理の徹底	新しい情報管理システムの導入に伴い、使用方法、個人情報漏えい防止対策、セキュリティに関する啓発をさらに強化する。	B	情報管理システムを活用したデータの取り扱いに関しては、意識が高くなってきている。セキュリティに関しても同様である。	引き続き、情報スキルの向上と、セキュリティに対する意識を高める啓発に努めたい。
保健厚生	健康管理能力の育成	保健委員会活動を通して、心身の健康管理に対する学びを深め、自己の健康管理ができる生徒の育成を目指す。	B	消毒液等の増設や使用方法の見直し、換気の徹底など感染症対策の明確化を行い、保健委員がリーダーとして率先して活動した。	引き続き感染症対策を行うとともに、新たに健康テーマを設定し、実態把握や改善に向けた取組を行いたい。
	防災意識の高揚	防災学習、避難訓練の内容を見直し、防災意識の昂揚に努めるとともに、安全点検を徹底して、施設面でも危機管理を行う。	B	防災訓練や避難訓練に積極的に参加することができた。消防団など、身近な組織についても理解を深めることができた。	防災をより身近に感じさせるとともに、自分のこととして考え行動できるよう、防災訓練等を工夫する。
渉外広報	PTA活動の活性化	生徒数の減少とともに保護者の数も減っているが、学校行事やPTA活動を現在の活気あるものを今後も維持していく。	B	新型コロナウイルス感染症により、ほとんどの行事が中止となり十分になされたとは言えないが、理事会や、書面での採決など協力していただくことができた。	新しい生活様式に順応したPTA活動を再考するとともに、感染防止対策を取りながら、できる範囲の活動を再開させたい。
	きめ細かな情報提供	学校新聞や毎月のPTA通信の内容が形骸化しないよう、新しいものを導入する。	B	今年度、いろいろな行事が中止や縮小となった中、PTA通信(月1回)・今工新聞(年2回)では生徒作品や生徒の活動、部活動での活躍した生徒の声を取り入れて、発行することができた。	毎月のPTA通信はホームページに掲載しているが、紙媒体での情報提供も継続して行う。
		体験入学や出前講座、ものづくり教室など、さまざまな活動を通して本校の魅力を外部に発信し、志願者数増加へつなげる。	C	新型コロナウイルス感染症のため実施できなかった活動もあるが、限られた中で積極的に魅力発信を行った。	志願者数の増加につながるよう、ツールの見直しを図りたい。
学校事務	人事管理の適正化	人事、給与、手当等の適正な支給と認定を行う。	B	適正な事務処理ができた。事務監査での指摘事項等もなかった。	引き続き、ダブルチェックと起案決裁の徹底に努める。
		心身の健康管理と事故防止を図る。	B	ストレスチェック集団分析結果は良好であった。公務災害もなかった。教職員健康管理医(産業医)との連携の見直しを提案した。	風通しの良い職場づくりに、引き続き全校態勢で取り組む。
		危機管理意識の高揚に努める。	C	不祥事や公務災害等はなく、教職員の意識も高いと感じるが、さらに危機管理意識の高揚を図るための具体的な取組は、職員会議での短時間の研修や職朝・掲示板での周知にとどまっている。	会計の不適正処理や諸手当の不適正受給が起こらないよう、また不祥事や公務災害、校内での事故が起こらないよう、必要に応じて、研修等を通じて継続的に働きかけていく。
	経理事務の厳正化と効果的な執行	各会計の計画的な予算執行と迅速かつ適正な事務処理を行う。	B	新型コロナウイルスの影響により、年度当初の計画どおりの予算執行とはなっていない部分もあるが、事務処理は概ね適正に行うことができた。	引き続き、計画変更柔軟に対応しつつ、必要な予算の執行を確実に行っていくとともに、予算の有効活用に努める。
		経費節減に努める。	B	限られた予算の範囲内で、経費節減に努めつつ必要な予算執行を確保することができた。	来年度は県費・私費ともに厳しい予算となるが見込まれるので、執行にあたっては、事業や物品の精選と節約に努める。
	文書管理の適正化	迅速な収受と適切な保存を行う。	A	文書の収受は日々確実に行うことができた。至急の処理が必要なものはその場で連絡をするなど、きめ細かい対応ができた。	引き続き、日々の収受と迅速な対応に努める。
施設・備品の適切管理	学校内外の潜在危険個所の除去と事故防止を図る。	個人情報の厳正な管理を行う。	B	個人番号や職員・生徒の個人情報など、管理は適正にできた。	事務室の整理整頓など情報漏洩リスク低減の取組を進める。
		管理厚生課と連携し、安全点検により判明した潜在危険箇所の改善を進めることができた。また、近隣住民から苦情の多かった桜井職員住宅も、売却により問題が解決した。	B	管理厚生課と連携し、安全点検により判明した潜在危険箇所の改善を進めることができた。また、近隣住民から苦情の多かった桜井職員住宅も、売却により問題が解決した。	校舎の長寿命化工事が3か年で始まるので、危険箇所の除去等が確実にされるよう事業を進める。また、教職員からの情報収集に努め、対応可能なものは迅速に改善を行う。
教職員	ICTの活用による業務の負担軽減	学習に生きる教育環境の整備と充実を目指す。	B	デジタル化対応産業教育設備の整備を計画どおり執行し、施設設備の修繕や感染症対策のための設備充実にも取り組んだ。	限られた予算を有効に活用できるよう、各科・課との連携を図りながら執行していく。
		校務系の充実と活用によって、文書処理や会議等の時間の短縮を図る。Teamsを有効活用することで、教育効果の向上と効率化を図る。	C	Teamsや生徒一人一台端末の導入により、作業内容に変化が見られるが、教育効果の向上は徐々にみられるものの、教職員の負担軽減にまでは至っていない。	TeamsやICT機器の効果的な活用方法を教職員間で共有することで、教育効果の向上と効率化を図ることができるよう工夫していきたい。
	効率的・効果的な活動の推進	計画的な活動によって休養日を確保したり、環境条件に配慮した活動によって安全を確保したりして、担当者の心身の負担を軽減する。	C	新型コロナウイルス感染症への対応などもあり、計画的な休養日の確保には至っていない。	休養日を確保することの意義や大切さを周知することで、ワークライフバランスを確保し、効果的な活動の推進を図る。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。